

NPO法人 花とみどりの街づくり・箕面 設立宣言 (趣旨書)

箕面市は、長らく「みどりの箕面」と言われてきました。

確かに、①街から眺める美しい山なみ、②市街地全体に及ぶみどり、③あちこちに見られる田園風景などが、この街の特色となっています。

また、箕面の街には生け垣や庭木の美しい落ち着いた住宅地（桜井・桜ヶ丘・百楽荘地区等）をはじめ、「大阪みどりの百選」に選ばれた桜並木通り（箕面地区）、子どもたちが川と触れ合える親水公園（箕面西公園）、市民と農家との交流でにぎわうれんげまつり（石丸地区）、近代的なショッピングセンターの人工池や流れによる憩いの水辺スペース（かやの中央地区）、彩りの木々や花々に包まれた住宅団地（如意谷地区）、個人が開設した見事なバラ園（粟生外院地区）など、優れた花とみどりが各所で見られます。

さらに、公園や河川などの清掃・美化、道端のお花づくり、あるいはみどりのリサーチ（調査・研究）や展覧会・フォーラムの開催などに、かなりの住民や市民グループが取り組んでいます。

しかし、箕面市民の“まちなかのみどり”に対する「満足度」はまだ十分ではなく、市街地の緑被率（緑の面積の比率）も近隣各都市並みで、とりわけ際立っている訳ではありません。

市民の70%は家庭で園芸を楽しんでいますが（「市民アンケート」）、多くの人々が自由に触れ合える公共の場の“緑花”の取組はまだ限られています。

例えば、市内の公園などの多くは清潔で緑も多いのですが、花の咲く樹木や花壇などの四季の彩りは十分ではないようです。また箕面の街全体も、美しい花々が連なって窓辺を飾るヨーロッパの街々ほどではないといえるでしょう。

さらに、市民の中には「街の樹木は増やして欲しいが、落ち葉そうじは迷惑」などのみどりへの矛盾した声があり、多くの住宅地でブロック塀が増えかつては多かった生け垣の比率が下がりつつあるなどみどりの退行現象も見られ、それらの解決が望まれています。

こうした状況を踏まえ、箕面市では、最近、市民などへの「まちなかのみどり支援事業」を始めました。この趣旨をさらに発展させるため、私たちは人々に呼びかけ樹木・草花・田園・水辺・生きものなどを含めた“まちなかのみどり”への取組を広げ強めたいと思います。

私たちは人々の家庭園芸などへの情熱を街全体の花とみどりへと広げる方向で、みんなで取り組んでいく『“まちなかのみどり”アクションプログラム』をこの春にとりまとめ発表しました。

これを受けて、これからは ① 人々の心と体とを健やかに育み、多様な生きものと共生する花とみどりの潤いある環境づくり、② 自治会への参加率が下がるなどの中で、花とみどりを通じた住民間のコミュニケーション・アップ、③ 超高齢社会の到来を控え、若い世代が移り住む花とみどりの魅力あふれる街づくり などを目指します。

私たちは市民・事業者・行政の協働によって“まちなかのみどり”を魅力アップしその恵みを人々が持続的かつ豊かに受け取れるよう、多様な活動を応援し推進していくコーディネート組織（中間支援組織）として、約4年間の準備活動を経て態勢を整え、ここに「NPO法人 花とみどりの街づくり・箕面」を設立します。

平成25年(2013)11月4日

「NPO法人 花とみどりの街づくり・箕面」設立総会 参加者一同

